

# 長野県北部地震から 「生きること」を考える



写真提供：須坂市教育委員会人権同和教育課  
宮下芳一氏

このリーフレットは小・中学校において「生きること」をテーマに命の学習をすすめていく際の指導資料です。それぞれの地域・学校の事情に合わせてご活用ください。

# 日常の崩壊

平成23年3月12日未明

地震発生

地震直後の旧栄村立東部小学校体育館内の様子です。天井板やガラスが落下して割れています。



写真提供：旧栄村立東部小学校

## 混乱・動揺

4月に行った教育相談アンケートに書かれた、栄中学校の生徒2名の言葉です。

地震はあったが自分に変化はないと思う。  
「栄村」はめちゃくちゃになったが人の気持ちは変わってないと思う。 (A男)

B子さんが「すべて受け止めている」と言う  
までにはどんな心の変化があったのだろう？

地震のことが頭から離れない。よく眠れない。集中できない。怒りっぽくなっている。自分を責めてしまう。身体がだるい。こんな体調の毎日です。ときどき「生きてる？」と思うことがある。

最初は家がひっちゃかめっちゃかで現実逃避していたけど、今はすべて受けとめています。 (B子)

## 再出発への願い

混乱が続く中、栄中学校では4月12日に入学式を迎えました。1年間のスタートに際して、校長先生はどんな思いでお話されたのでしょうか。

### 栄中学校入学式 ～校長先生のお話～

21名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんが入学する平成23年は、栄村にとって、日本にとって、特別なものとなりました。学校に来て友だちに会える、帰る家がある、今こうして生きているという当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなかったということ、私たちは改めて学ぶこととなりました。

『カシコギ』という小説に次のような一節があります。

**「あなたが空しく生きた今日は、昨日死んでいった者が、あれほど生きていと願った明日」**

こうして生きていることさえ、当たり前ではないのだということを考えても、今日、入学式を迎えることができ、多くの人とその喜びを分かち合えることは、本当にありがたいことです。だからこそ、命ある私たちは、自分の命を精一杯輝かせるという使命があるのだと私は思っています。

「空しく生きた今日」とはどんな一日のことだろう？

「自分の命を精一杯輝かせる」とはどういうことだろう？

# 命のつながり

## 地域の中で

7月、栄中学校ボランティア委員会では、地域のお年寄りのみなさんに手紙を書きました。2年生の委員とお年寄りのやりとりを紹介します。

### ボランティア委員会から地域のみなさんへの手紙

この度、栄中学校ボランティア委員会では、大きな地震があった栄村の地域の方に元気になっていただきたいという理由から手紙を書いて交流したいと思い、手紙を書かせていただいています。

あの震災から4ヶ月。皆様のお家はどのようでしょうか。

「かみの老人」から手紙をもらった志歩さんはどう感じたでしょう？

## 離れていても

県外の小中学校からも支援のお便りがたくさん届いています。

栄小学校には、さいたま市の阪本小・常盤小の友だちから絵手紙が届きました。(5月)



### ボランティア委員2年の志歩さんに返事が届きました。

志歩様  
御手紙ありがとうございます  
本当に大地震で 唯驚きと不安と何となく早く  
夜明け待つ計り だんだん未知な突進の思いで  
負傷者もなく何よりでした 3ヶ月も過ぎて夜は心配  
為に衣服の用意はしています 甚の中 栄さんの 生き  
此望と描いた 元気なみんなの手紙は 本当に何より  
元気をいれます ずくずくと近づく栄さんの姿  
其のもので 私達 区にも大勢 学生所 おります 何より  
家は皆さんで 栄村の復興は お父さん お母さん  
生活に 行く 欠く事 出来ぬ 程と 思っています 地震の  
復興は 皆さんの 元気でね 又 明日 元気を 明るい 声で  
お祈り 願っています  
かみの老人 志歩

「いつもいっしょ」とは、どんな意味だろう？

写真提供：栄小学校

## 復興支援

栄村復興支援機構「結い」は震災からの立ち直り支援を目的に活動をしています。その中で多くの学生ボランティアが支援活動に参加しました。

どんな気持ちからボランティアをしようと考えたのだろう？

○村の方々はいへんな思いをなさっているにもかかわらず 気丈に明るくふるまっておられ、私は役に立つどころかいつも学ばせていただくばかりでした。そんな中でも「ありがとう」という感謝の気持ちでいっぱいです。  
(大学四年生)

ボランティア参加者  
○二日間、土砂の片付けを行いました。震災当日から作業をしている被災者の方は本当にかんばっていると感じました。人と人とのつながりの大切さを実感し、これからもそのつながりを大事にしていきたいと思いました。  
(高校三年生)

復興支援に携わっている方々の気持ち

栄村復興支援機構「結い」

代表 相澤博文さん

○どんなこともチャンスと考え、前向きに進んでいくことが大事です。そんな中で、人と話すこと、人に寄りかかること、人と分かち合うことが大切であると思います。命は借りものであり、地域や社会に利子をつけて返さなければなりません。

# 前へ

## 自分たちも

4月、栄中学校生徒会では、何度も話し合いを重ね、人と人とのつながりや感謝の気持ちを大切に、生徒会スローガンを決めました。



## 生徒会スローガン『絆』

この一字には、今回の震災や日々の生活でお世話になっている皆さんへの感謝や、より一層つながりを大切にしていきたいという思いが込められています。

3月12日の震度6強の地震で、中学校も一時休校となり避難生活が続きました。その中で改めて感じたことは、僕たちは多くの方々の様々な支えによって今まで生活してこられたのだということでした。今年度の生徒会は、人と人とのつながりや感謝を大切に活動していきたいと考え、スローガンを決めました。

## 仲間とともに

被災した栄中のみなさんを励まそうと、多くの中学校から交流の申し込みがありました。そして7月30日、「絆音楽祭」が開催されました。

## 「絆音楽祭」開催！ 相森中 開成中 墨坂中 附属松本中 柳町中の仲間とともに



### ◆栄中学校 生徒会長の感想から

「みんなが応援してくれていることがわかりうれしかった。同じ世代のつながりを大切にしていきたい。」

### ◆松本市立開成中学校生徒の感想から

「栄中は少人数なのに元気がよかった。こちらの方が元気づけられた気がする。」

### ◆栄中学校 校長先生のお話から

「各中学校のみなさん、心のこもった発表をありがとうございました。人間には、他人の痛みを自分の痛みのように感じる心、さらに他人のために行動に移すという温かい心があります。今日の音楽祭を通して、そうした心に触れ合える命の喜びを改めて感じました。」

あなたは「命の喜び」をどんなときに感じますか？

「こちらの方が元気づけられた」のはなぜだろう？

## 日々の笑顔とともに

多くの困難に直面しながらも、栄村の子どもたちは、日々の生活を明るく前向きに過ごしています。

友だちと  
いっしょ  
うれしいな



みんなと食べる  
給食はおいしいな



## お問い合わせ先

長野県教育委員会事務局 教学指導課 心の支援室

TEL : 026-235-7436 (直通) E-mail : kokoro@pref.nagano.lg.jp